

氏名	兼宗美幸	部署	保健医療福祉学部 看護学科	職名	教授
研究分野	母性看護学・助産学				
学位	博士（看護学）				
学歴	1986年千葉大学看護学部看護学科卒、2000年文教大学大学院人間科学研究科修士課程生涯学習学専攻終了、2020年順天堂大学大学院医療看護学研究科博士後期課程修了				
経歴	1989年埼玉県立衛生短期大学看護学科助手、1996年同講師、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教授、2007年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授、2020年度現職				
所属学会（役職）	日本看護科学学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、更年期と加齢のヘルスケア学会、日本女性医学学会、日本女性心身医学会、日本看護研究学会、日本看護教育学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会、日本看護歴史学会、日本看護技術学会、日本看護シミュレーション学会				

【2023年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	女性の更年期症状緩和のための認知行動療法、第2部 更年期症状に対する認知行動療法 第6章不安への対処	共著	あり	(株)サイオ出版 全175ページ	著者：Sheryl M. Green , Randi E.McCabe , Claudio N. Soares 監訳：高橋 眞理 訳者：高橋眞理、日置智華子、永谷美穂、佐藤洋輔、兼宗美幸、高島えり子	2023.11
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	病院助産師が抱く養育支援に関する結果票への認識	共同	第25回日本母性看護学会学術集会、東京		○内田順子、兼宗美幸、浅井宏美、齋藤恵子	2023.5
2	更年期障害各症状への認知行動療法(CBT)によるセルフケア-ホットフラッシュ、不安、不眠、泌尿生殖器症状へのアプローチの実際 更年期障害各症状への認知行動療法(CBT)によるセルフケア 不安とよりよく付き合うために	単独	第21回更年期と加齢のヘルスケア学会・日本サプリメント学会学術集会、東京		○兼宗美幸	2023.9
3	母親の産後ケア事業利用経験に関する父親の認識	共同	第64回日本母性衛生学会学術集会、大阪市		○箭内清美、兼宗美幸、浅井宏美、鈴木幸子	2023.10
4	超低出生体重児のNICU退院後に母親の母乳育児経験を支えた原動力	共同	第39回埼玉県母性衛生学会総会・学術講演会、さいたま市		○野口香、兼宗美幸、浅井宏美、齋藤恵子	2023.11
5	分娩介助実習直前の助産学生における模擬産婦シミュレーション演習前後の実習意欲の変化	共同	第5回日本看護シミュレーションラーニング学会、東京		○東原亜希子、柴田由里子、山本英子、森美紀、兼宗美幸、齋藤恵子、浅井宏美、千葉真希子、齋藤未希、堀口香織、鈴木幸子	2024.2
6	Enhancing Maternal and Child Health: A Collaborative Approach in Mountainous Regions Through Public-Private Partnerships and University Initiatives	共同	27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)、 Hong Kong		○Megumi Sakamoto, Tomoko Yamagishi, Rie Onda, Miyuki Kanemune	2024.3
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					

2. 競争的資金等の研究				
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	児童生徒のインターネットゲーム障害を予防・早期発見する専門職研修プログラムの開発	研究分担者	2021.4 - 2024.3
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学Ⅰ	○	7	看護学科1年生130名を対象に母性看護学の基盤となる概念、性と生殖にかかわる健康や看護について動画や小冊子などを活用して統合的に伝え、学生に問いかける等双方向性となるよう留意した。
2	分娩期のケア	○	2	看護学科助産系4年生22名を対象に、「分娩の生理」「分娩介助の意義」について既習事項と関連付けて伝えた。学生に問いかける等双方向性となるよう留意した。
3	周産期のケア		2	看護学科助産系3年生22名を対象に、「助産学概論」「助産師の職業倫理と生命倫理」の講義をお担当した。既習事項と関連付けて伝え、学生に問いかける等双方向性となるよう留意した。
4	母性看護学Ⅱ		1	看護学科2年生130名を対象に、ライフサイクル各期における性と生殖に関連する健康課題と看護を担当した。架空事例での具体的な看護実践について学生に問いかける等双方向性となるよう留意した。
5	助産業務管理		1	看護学科助産系4年生22名を対象に、助産業務管理の概要について歴史的経緯を含めて、既習事項と関連付けて伝えた。周産期医療のトピックスをもとに学生に問いかける等双方向性となるよう留意した。
6	リプロダクティブヘルスと看護		1	看護学科4年生を対象に「性暴力と被害者支援」を担当した。前年度の学生の感想や意見を踏まえて内容（性暴力被害者の看護の事例の提示と解説）や動画教材を変更した。
7	ヒューマンケア論①②		0.5	全学科1年生を対象に45分間「産まない権利から生を見つめる」をテーマにビデオ教材を作成した。統計や実践をもとにセクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツの視点から生を考える重要性を伝えた。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	分娩期のケア	○	23	看護学科助産系4年生22名を対象に分娩介助に係る助産技術や助産過程展開の学習を積み重ねるよう個別の学習状況を確認しながら担当した。分娩介助技術練習について安全で確実な人的・物的環境を整備した。
2	母性看護学Ⅱ		6	看護学科2年生130名を対象に周産期にある母児と家族の架空事例に関する看護過程の展開について自己学習・グループ学習を支援した。主体的に振り返りができるように事前学習を確認しながらかかわった。
3	遺伝と看護		6	看護学科4年生対象に、先天異常児（胎児）と母と家族の事例2つのPBLチュートリアルを2G（5名/G）担当し、ファシリテートした。討議が活発になるよう個別の学習の確認や、資料の補足で支援した。
4	周産期のケア		1	看護学科助産系3年生22名を対象に「助産師外来演習」を担当した。対象者（妊産褥婦や家族）の視点でのケアの検討や振り返りができるように事前学習を確認しながら支援した。
5	リプロダクティブヘルスと看護		3	看護学科3年生を対象にリプロダクティブヘルスに関するテーマ別課題演習の自己学習と個別発表について4G（6・7名/G）担当した。Teamsにて個別の学習を支援し助言を行うことで主体的な活動を促した。
6	大学院博士後期課程 次世代育成看護論		4	後期課程2名を対象に「リプロダクティブヘルス/ライツの支援」から「女性の意思決定支援」「生涯を通じた女性の健康づくり支援」に関して文献抄読と討議により院生の研究テーマを深めることを支援した。

(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	助産学実習Ⅱ	○	2023.6～2023.11	看護学科助産系4年生を対象に、分娩助産実習前の学内代替事例、複数施設での分娩助産実習、NICU見学実習を担当した。ケアの原則を臨地で主体的に学ぶよう学生の心身のケアと個別的な学習を支援した。
2	母性看護学実習		2023.5～2023.6	看護学科3年生を対象に、主に性と生殖に関するヘルスプロモーションの実習に関して担当した。家族・地域の中にある性と生殖に関する健康と権利の課題について討議が活発化するようファシリテートした。
3	助産学実習Ⅰ		2023.5～2023.6	看護学科助産系4年生を対象に、市区保健センター2か所で地域母子保健関連事業を見学する3Gを担当した。地域での生活と健康課題、多職種連携・協働の実際に関して施設とコロナ禍後の実習方法を調整した。
4	総合実習（母性看護学領域）		2023.7	看護学科助産系4年生22名を対象に、助産所実習と母体・新生児搬送コーディネーター事業見学実習を担当した。臨地実習指導者の協力を得て、学生の疑問や反応に合わせて課題や見学内容を調整した。
5	IPW実習		2023.10.	全学科4年次生6名をコロナ禍後初の臨床での実習を教員FTとして支援した。実習施設FTと他グループ教員FTと共に連携と統合を実践できるよう支援した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2023.4～2023.12	主指導 2名	副指導 2名
2	修士論文	2023.4～2024.3	主指導（指導教員） 1名	副指導（指導補助教員） 0名
3	博士論文	2023.4～2024.3	主指導（指導教員） 0名	副指導（指導補助教員） 3名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	院内看護研究	草加市立病院	倫理審査会および看護研究発表会（全5回）	2023.4～2024.3
2	オープンカレッジ講座 専門職スキルアップ講座	埼玉県立大学	臨床家のための看護研究セミナー（全4回）	2023.6～2023.12
3	ともろうカフェ連続講座 第3回	こしがやともろう	「性と生殖に関する権利 今知りたいこと・話し合いたいこと」 誰にもある更年期と心身のケア	2023.12
4	ともろうカフェ連続講座 第4回	こしがやともろう	「性と生殖に関する権利 今知りたいこと・話し合いたいこと」 かるたで学ぶところ・からだ・性わたしのだいじ	2024.2
5	協働事業講座	ハーモニー春日部市	誰にもある更年期のこころと身体のケア	2024.2
6	女性のための健康セミナー	越谷市保健医療部市民健康課	更年期とうまく付き合おう『これからの未来予想図を描いてみよう』	2024.3
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	埼玉県	埼玉県総合医局機構地域医療教育センター委員会 委員		2023.4～現在
2	公益社団法人 埼玉県看護協会	埼玉県助産師出向支援導入事業協議会 委員		2023.4～現在
3	さいたま市	さいたま市男女共同参画推進協議会 委員		2022.4～現在
4	ウィメンズヘルス研究所	幹事		2020.4～現在
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			

(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	越谷市立病院	病院経営審議会委員	2019.4～現在
2	地域貢献活動	認定特定非営利法人 こしがやともろう	理事	2017.7～現在
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	過半数代表者		2023.4～2024.3
2	学科等における委員会等	保健師助産師関連科目履修者選考委員会		2023.4～2024.3
3	学生支援	4年次担任長		2020.4～2024.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			